

ポラリスリサーチレポート

2025年5月
No.109

南海トラフ巨大地震の被害想定が 13 年ぶりに見直されました。浜松市の遠州灘海岸沿いには、高さ 13 ~ 15 m の防潮堤「一条堤」が有ります。



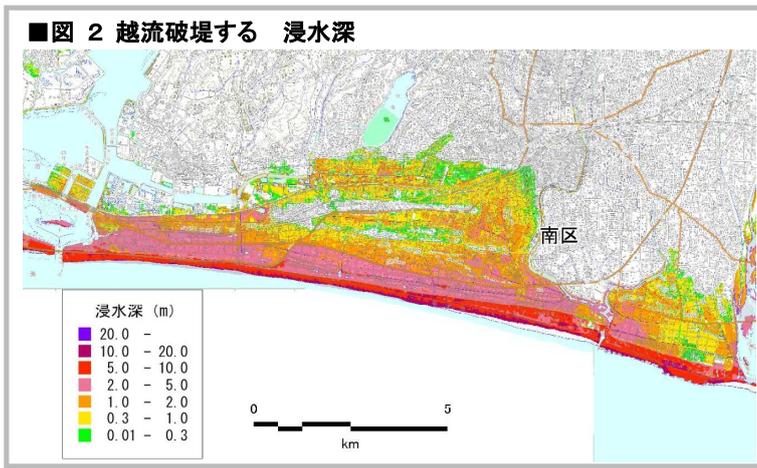
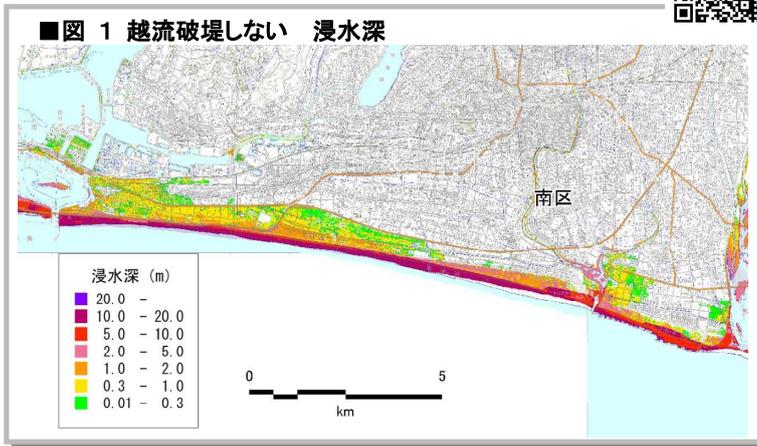
右図は津波の浸水分布で、「ケース①駿河湾～紀伊半島沖に大すべり域+超大すべり域を設定」した想定で、図1は津波が堤防等を越流しても破堤しない場合の浸水深で、図2は津波が堤防を乗り越え破堤した場合の浸水深です。

表1は11のケースを想定した津波の最短到達時間です。1mの津波は早いケースは5分で到達しますが、地震の揺れで防潮堤が崩れていなければ、防潮堤で防げると考えられます。5mの津波が来るまで17分ほど有ります。

早めの避難が必要です。



「最大津波高 一覧表」によると、浜松市の海岸へは、ケース①は17m、ケース⑥は16m、ケース⑧は15mと、防潮堤よりも高い津波が想定されます。やはり、早めの避難が必要です。



■表1 津波の最短到達時間 浜松市

単位:分

ケース	津波の高さ→	1m	3m	5m	10m	20m
①駿河湾～紀伊半島沖に「大すべり域+超大すべり域」		5	6	18	19	—
②紀伊半島沖に「大すべり域+超大すべり域」		7	15	17	—	—
③紀伊半島沖～四国沖に「大すべり域+超大すべり域」		7	17	18	—	—
④四国沖に「大すべり域+超大すべり域」		8	18	19	—	—
⑤四国沖～九州沖に「大すべり域+超大すべり域」		9	19	20	—	—
⑥駿河湾～紀伊半島沖に「大すべり域+(超大すべり域、分岐断層)」		5	6	18	19	—
⑦紀伊半島沖に「大すべり域+(超大すべり域、分岐断層)」		7	15	17	—	—
⑧駿河湾～愛知県東部沖と三重県南部沖～徳島県沖に「大すべり域+超大すべり域」		6	8	19	20	—
⑨愛知県沖～三重県沖と室戸岬沖に「大すべり域+超大すべり域」		5	7	19	—	—
⑩三重県南部沖～徳島県沖と足摺岬沖に「大すべり域+超大すべり域」		7	16	18	—	—
⑪室戸岬沖と日向灘に「大すべり域+超大すべり域」		8	18	19	—	—

令和7年3月31日の「南海トラフ巨大地震モデル・被害想定手法検討会 地震モデル報告書」等より作成

【 ニュースレター 解説&勉強会 】

本ニュースレターの解説&勉強会を ZOOM で行います。参加者同士で、ビジネススキルを高める「フラット」な勉強会です。

- ・日時 5月10日(土) 午前9:30～30分程度 ・ファシリテーター 西川公一郎
- ・会場 ZOOM=ご自宅等からオンラインでご参加下さい
- ・対象 本「リサーチレポート」の読者で、中期戦略策定などに興味がある方等
- ・定員 3名程度(先着順) ・参加料 無料

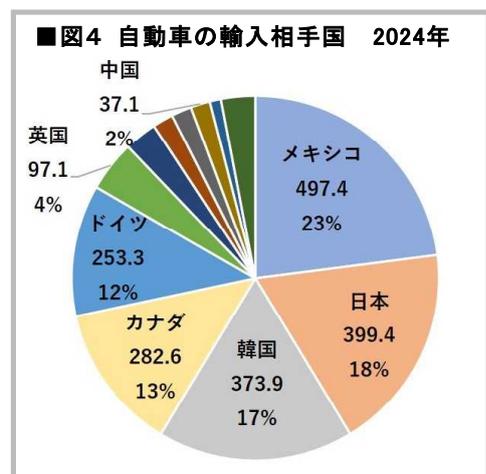
お申し込み↓



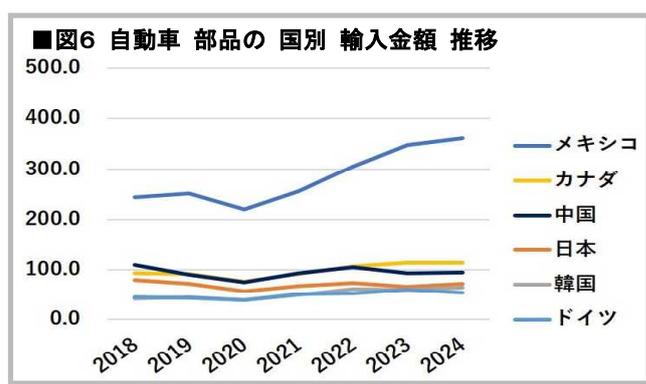
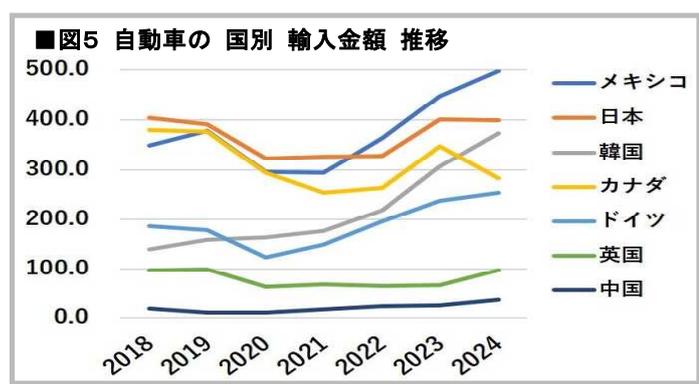
* 内容&参加お申し込みは右のQRから

4月より米国の輸入関税が10%となった。日本への24%の相互関税は90日間（7月上旬まで）延期された。自動車については4月から25%の追加関税が実施されており、日本からの輸入について乗用車は27.5%、トラックは最大50%となっている（4月20日現在。今後の交渉などで変わる可能性有り）。

図3は米国の自動車の輸入金額の推移で、2024年は2,168億ドルと、2009年の約2.6倍となっている。2024年の主な輸入先（図4）は、メキシコ、日本、韓国、カナダ、ドイツ、英国などで、日本からは約400億ドル輸入している。2018年からの推移（図5）を見ると、メキシコと韓国からの輸入が増えている。



2024年の自動車部品の輸入は約876億ドルで、年々増加しており、2009年に比べ約3倍になっている。主な輸入先はメキシコ、カナダ、中国、日本、韓国などで、2018年からの推移（図6）を見ると、メキシコからの輸入が増えている。



← バックナンバー

2025年4月23日執筆

ビジネス戦略で 売上の 未来を描く

***** 市場調査・統計データ 研修・戦略立案・マーケット開拓 をサポートします*****

合同会社ポラリス 〒430-0942 浜松市中央区元浜町86 2F ko-ichi@24kawa.org

執筆 西川公一郎 ((一財)日本総合研究所 客員研究員)

社内DXの成功のカギは、市場調査&統計データ分析の「仕組み」作り